



TITLE:

和歌山県日置川町志原海岸の国道
で次々と事故死したホンダタヌキ
とニホンテン(哺乳綱, 食肉目)

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県日置川町志原海岸の国道で次々と事故死したホン
ダタヌキとニホンテン(哺乳綱, 食肉目). 南紀生物 1998, 40(1): 135-136

ISSUE DATE:

1998-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188265>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

短 報

和歌山県日置川町志原海岸の国道で次々と事故死した ホンドタヌキとニホンテン（哺乳綱，食肉目）

久保田

信*

Shin KUBOTA: Raccoon dog and Japanese marten (Mammalia, Carnivora) accidentally died one after another on a national road at Shihara Kaigan coast at Hikigawa town, Wakayama Prefecture, Japan

主として和歌山県白浜町近隣の舗装された道路上で事故死した動物を、この数年間に頻繁に見かけた。季節により交通事故死した動物の種や個体数は異なっていたが、犠牲となった主な大型動物は、カエル類（主としてウシガエル *Rana catesbeiana* SHAW）、カメ類、ヘビ類、哺乳類（イエネコ *Felis catus* LINNAEUS を含むネコ類を中心とした食肉類）などの脊椎動物と無脊椎動物としては、カニ類（大半はアカテガニ類）や昆虫類などの節足動物と軟体動物であった。本報告では、次々と3個体の野生の哺乳類が、近接して国道42号線路上で交通事故死した例を取り上げた。

1997年9月28日午前中に遭遇した交通事故死した3個体の野生の食肉目哺乳類の記録

当日、和歌山県の白浜町臨海（京都大学瀬戸臨海実験所）から串本町有田（財団法人海中公園センター・鯖浦海中公園研究所）まで、国道42号線路を利用して普通車で出かけた際に本例に遭遇した。これまでの筆者の経験上、距離の長短にかかわらず、一日に3個体もの死亡例に遭遇したのは今回が初めてであった。

1. 出発後まもなく白浜町で遭遇した1個体（道路の中央付近で死亡）は、ホンドタヌキと思われる。しかし、夕方の帰路の際に、死体が消失していたため事故発生地点と種の確定ができなかった。
2. 上記の事故死第1個体に遭遇に続き、それから約数十分後の午前11時30分前後に、連続して遭遇した事故死した計2個体は、ホンドタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus* TEMMINCK 1個体と（図1）とニホンテン *Martes melampus melampus* WAGNER 1個体（図2）で、日置川町志原海岸の国道42号線路上の一端に、わずか数十mの距離をおいて死亡していた。両個体とも事故に

よる傷みは少なく、車にはねられ即死したものと推察される。夕方の帰路の際にも、両者の死体は残っていた。

考 察

上記3個体とも大きさと時期からみて成獣もしくはそれに近いもの（性は調べなかったので不明）と思われる。また、第1個体の死亡場所（道路中央）および他の2個体の死体のそばの血痕が鮮明であったことからみて、これら3個体が事故にあったのは同日である可能性が高い。ホンドタヌキやニホンテンは夜行性なので（細田，1984などを参照）、活動時に事故死したのであろう。ただし、3個体もの連続した死亡、それも2種2個体の死亡がほぼ同地点であったことの原因は、偶然による事故の連続の結果なのかかもしれないが、事故発生場所が動物が容易に横断できる地点であるとか、動物にとって死角になっており事故が発生しやすいとか、動物を誘引するもの、例えば容易に確保しやすい美味な餌があるなどの理由があるのかもしれない。

ホンドタヌキとニホンテンはいずれも白浜町に生息し、前者では交通事故死例がよく見かけられている（細田・湊，1982）。後者もわが国の生息域で自動車道路網が発達するとともに交通事故死する個体があとが絶たず（細田・鑑，1996）、和歌山県の海岸沿いに走る国道42号線路上では、その交通事故死の例が前者とともに報告されている（紀伊民報，1986；釣場，1990）。

ホンドタヌキは、白浜町近郊では、体毛の斑紋の特徴からハチあるいはハチモンジと呼ばれており（細田・湊，1982）、今回報告した死亡個体（図1）もこの記載に一致した。一方、ニホンテンも、ホンドタヌキの分布（芝田，1996）と同様に、わが国の本州、四国、九州にかけて生息する。ニホンテンには毛色（特に冬毛）に2型あり、北は青森県から南は鹿児島県までの本州と九州の広範囲にわたって生息する“キテン”に対して、四国と本

* 京都大学瀬戸臨海実験所（〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海459）

Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan

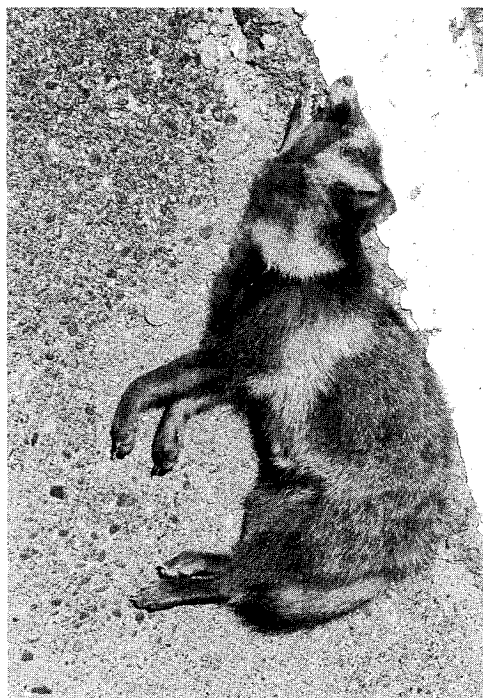


図1 和歌山県の国道で事故死したホンダスキ
Nyctereutes procyonoides viverrinus TEMMINCK
(スケールは500円硬貨)。

Fig. 1. Raccoon dog accidentally died on a national road in Wakayama Prefecture (500 yen coin as a scale).



図2 和歌山県の国道で事故死したニホンテン *Martes melampus melampus* WAGNER (スケールは500円硬貨)。

Fig. 2. Japanese marten accidentally died on a national road in Wakayama Prefecture (500 yen coin as a scale).

州の紀伊半島に分布する個体はほとんどのものが“スステン”であることが知られている(細田・大島, 1993; 細田, 1995)。今回報告した死亡個体は、死体遭遇時に撮影したカラー写真での配色をみた限り、夏毛の“スステン”(細田 同定)であった。

紀伊半島の哺乳類に関する生物学的な報告は皆無に近い(細田 私信)ので、本報告も基本的な情報の一つとなろう。

謝 辞

貴重な文献をご教示下さった田名瀬英朋氏と細田徹治氏に感謝致します。また、細田徹治氏はスステンの同定もして下さり深謝致します。

参 考 文 献

細田徹治. 1984: テン *Martes melampus melampus* の日周活動. 南紀生物, 26(1), 67.

———. 1995: 身近な夜行性動物 第5回 テン. なきごえ, 31(2), 4-5.

———. 湊 秋作. 1982: 哺乳類 in 白浜町誌自然編 白浜の自然, pp. 91-98. 白浜町.

———. 大島和男. 1993: ニホンテン *Martes melampus melampus* WAGNER の毛色の変異. 南紀生物, 35(1), 19-23.

———. 鑪 雅哉. 1996: テンとエゾクロテン. in 日本動物第百科 第1巻 哺乳類 I, pp. 136-139. 平凡社, 東京.

紀伊民報. 1986: 動物の世界にも交通禍 テンもひかれ死ぬ(6月8日付記事).

的場 績. 1990: 国道42号における獣類の輪禍について. 和歌山県自然博物館報, 8, 39-44.

芝田史仁. 1996: タヌキ. in 日本動物第百科 第1巻 哺乳類 I, pp. 116-119. 平凡社, 東京.

南 紀 生 物

第40巻 第1号 別 刷

Reprinted from
NANKISEIBUTU: The Nanki Biological Society

Vol. 40, No. 1

May 1998